

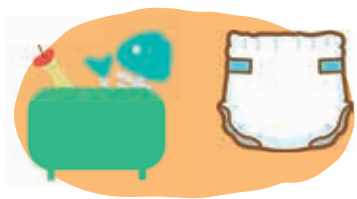
正しい分別方法・出し方



ごみは、決められた日の午前8時30分までに地区が決めた場所に出してください。

燃やせるごみ

生ごみ、紙くず、紙おむつ、枝木 など



これも燃やせるごみ

- ・花火 ・カーボン紙
- ・ござ ・ネクタイ
- ・よしず

ココがポイント!

- 生ごみは、水切りをし、紙袋に入れ口元を縛る。
- 紙おむつは汚物を必ず取り除く。
- 枝木(直径5センチメートル以下)は、長さ50センチメートル、直径2.5センチメートルほどに束ねる。*直径5センチメートル以上のものは、事前に小針クリーンセンター(☎559-3641)に連絡の上、直接搬入する。
- 刈草・落ち葉は、紙袋に入れる。*大量の場合は、小針クリーンセンターへ直接搬入する。

燃やせないごみ

金属・ガラス・陶磁器類、プラスチック・ビニール類、ペットボトル、発泡スチロール など



これも燃やせないごみ

- ・油の缶 ・ぬいぐるみ
- ・CD・DVD ・靴類
- ・使い捨てカイロ

ココがポイント!

- 割れたもの、カミソリ、先が尖っているもの(釘や針)は、紙などに何重かに包むか瓶や缶などに入れ、中に入っているもの名前を表に分かるように書く。
- 衣類の中で、革製、フリース、ダウン、ビニール製、化学繊維のものは「粗大ごみ」として出す。

粗大ごみ

寝具、家具、電化製品(テレビ、冷蔵庫など6品目を除く) など



これも粗大ごみ

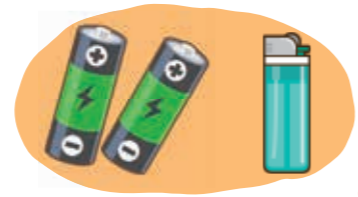
- ・タイヤチェーン
- ・電子レンジ
- ・プリンター
- ・ミシン(家庭用)

ココがポイント!

- 布団、毛布、じゅうたん、カーペット、カーテンなどはできるだけ小さく折りたたんで縛って出す。
- スプリングが入ったマットレスは、粗大ごみ処理場へ直接搬入する。
- 照明機器の蛍光灯は外して、「有害ごみ」として出す。
- 家電リサイクル法に該当するものは出せない。*4ページ参照

有害ごみ

電池、蛍光灯、蛍光管、電球、使い捨てライター など



これも有害ごみ

- ・体温計
- ・温度計(水銀を含むもの)

ココがポイント!

- 種類別に分別し、ビニール袋に入れて出す。*蛍光管は割れないように購入時の箱などに入れて出してもよい。
- 使い捨てライターは、ガスを使い切ってから出す。
- ニッカド電池、ニッケル水素電池、リチウムイオン電池などの充電式電池やボタン式電池は、できるだけ販売店のリサイクルボックスに入れる。

資源物(リサイクルできるもの)

缶類、ビン類、紙類、布類 など



紙類のポイント!

- 新聞、雑誌、段ボール、紙パックは種類ごとにもみで束ねて出す。
- 雑紙(チラシ、紙箱、紙袋、包装紙、台紙、封筒、メモ用紙、プリント用紙など)は、雑誌と一緒に束ねるか紙製の袋に入れ、袋の口が開かないようにもみで縛って出す。

缶類のポイント!

- 簡単に水洗いして出す。
- アルミ缶とスチール缶に分別し、決められたコンテナに入れる。
- 油類の缶、塗料缶、洗ってもきれいにしない缶は「燃やせないごみ」として出す。
- スプレー缶は使い切ってから出す(穴開け不要)。

ビン類のポイント!

- キャップを外し、簡単に水洗いして出す。*キャップは、「燃やせないごみ」として出す。
- 薬品のビンは「燃やせないごみ」として出す。
- 分別は「ビールビン(大ビン)、一升ビン」と「それ以外のビン」に分けて出す。



雑紙は、「燃やせるごみ」ではなく「資源物」として分別しましょう

みんなで進める

ごみの正しい分別と減量化



ごみ問題について
考えてみよう

日常生活の中で、毎日出る「ごみ」。私たちが出しているごみは膨大な量であり、環境省によると、日本は年間に4千167万トン(東京ドーム約112杯分)ものごみを排出しています。ごみは大きな社会問題であり、この問題を放置してしまうと、環境汚染や資源の枯渇、埋め立て地不足など私たちの生活にさまざまな悪影響を及ぼします。地球環境を守るため、また、将来世代の負担軽減のために、一人一人が正しいごみの分別や減量化についての知識を深め、できることから取り組んでいきましょう。

ごみの削減は私たちが取り組むべき重要な課題

2030年までに、より良い世界を目指す国際目標SDGs(「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」)の目標12「つくる責任つかう責任」では、ごみの発生防止や削減、リサイクル・リユースを通じて、ごみの発生する量を大きく減らすことをターゲットに掲げています。この目標は、先進国や開発途上国を問わず、全ての国、企業、そして消費者に対して投げ掛けられており、ごみの削減は私たちが取り組むべき重要な課題となっています。

また目標14「海の豊かさを守ろう」では、海洋汚染の防止をターゲットに掲げており、これはプラスチックごみと密接に関わっています。環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書(令和元年版)によると、世界で年間800万トンものプラスチックごみが海に流れているという試算や、2050年には海洋中のプラスチックごみの重量が魚の重量を超えるという試算もあり、世界全体の課題として対処する必要があります。

